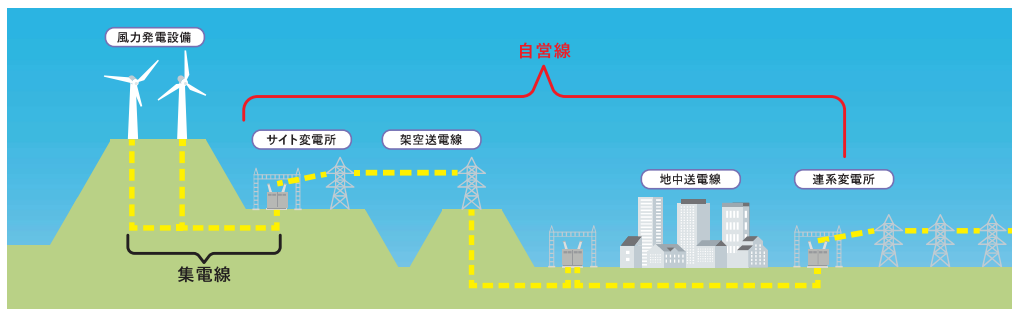
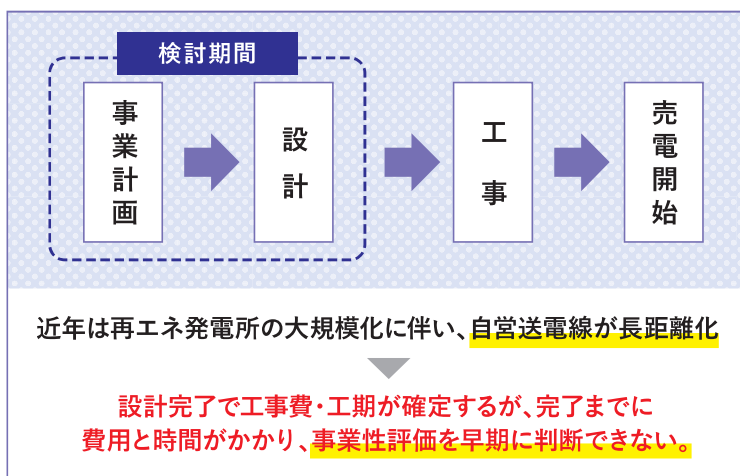


再生可能エネルギー発電所における自営線設計システム



こんな悩みはありませんか？

- ◆ 検討には費用と時間を掛けたくない
- ◆ 工事費はいくら掛かるのか
- ◆ 工期はどの程度かかるのか



1 | 早期に課題解決する技術

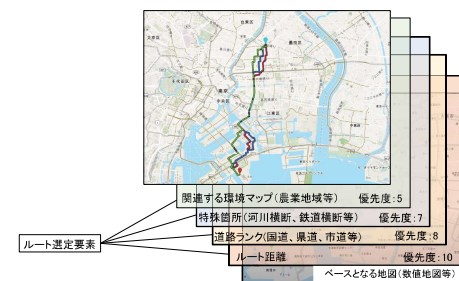
自営線設計システムを用いた設計フロー

設計フロー	設計内容
設計開始	発電所・連系点が確定後、自営線設計を開始。
1. ルート検討	ESRIジャパン株式会社が提供する地理情報システム ArcGIS®のルート解析機能を用いて、ルート選定条件を与えて最適ルートを検討。
2. ケーブルサイズ検討	検討ツールにより発電所情報、布設条件等からケーブルサイズを検討。併走条件、特殊条件にも対応。
3. ケーブル区間割検討	ルート線形から張力検討を行い、ケーブル許容張力・測圧や輸送条件等からジョイント位置を決定。
設計完了	上記の設計により確定した仕様で工事費、工期を検討。

事業性評価

2 | ルート検討のシステムイメージ

ESRIジャパン株式会社のArcGIS®で最適な自営線ルート検討



自営線ルート検討時のルート選定要素を地図上に重ね合わせ、ラスタ解析により“通りやすさ”を可視化し、最適ルートを選定。

- ◆ 設計期間を大幅に短縮する事ができる。
- ◆ 設計途中で許認可等の理由により、ルート変更が生じた場合にも容易に再検討ができる。
- ◆ 案件初期段階に精度の高い工事費・工期の検討をすることで、事業性評価ができる。

住友電設は事業計画初期段階から事業に参画し、発電所建設を全力でサポートします。